

農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会（第3回）会議要録

日 時 平成16年9月13日（月）午後6時30分～9時

場 所 武蔵野商工会館市民会議室

出席者 細野委員・清水委員・鈴木委員・川原田委員・古田土委員・
永並委員・川邊委員・檜山委員・藤井委員・小森委員・
塩沢委員・南條委員、その他（幹事会委員、事務局）

1. 開会

事務局 資料確認

- ・農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会（第2回）会議要録(案)
- ・施設機能の検討（図書館機能を持つ施設、「会議・研究・発表」のための施設、「創作・練習・展示」のための施設、「交流」のための施設、青少年活動機能）
- ・配置計画概念図
- ・笠間市立図書館のICタグ（日経産業新聞より）

2. 議事

(1) 第2回策定委員会会議要録の確認

事務局より「第2回策定委員会会議要録(案)」について説明

【委員】承認する。

【委員長】訂正などはないようなので、9月15日の市ホームページ、また市政資料コーナーで公開していく形をお願いします。

(2) 施設機能の検討

【委員長】議事2「施設機能の検討」について事務局より説明を。

【事務局】資料「施設機能の検討」について以下のとおり説明

施設づくりの考え方 施設づくりの考え方の基本は、すべての機能の有機的な一体化、フレキシビリティの確保、ゆとり空間の確保などで、構成としては、図書館機能を持つ施設、「会議・研究・発表」のための施設、「創作・練習・鑑賞」のための施設、「交流」のための施設となる。

図書館機能の確認 図書館機能の新たなサービスに特色を持たせることをポイントとし、音楽、演劇などのスタジオフロアにその関連の専門図書コーナーを設置する。AV専用コーナーは設置せず、ブラウジングコーナー等を活用する。

「会議・研究・発表」のための施設 この場を一つのフォーラム（武蔵野フォーラム）と捉え、周辺の大学の研究発表や市内有識者の講演等を行い、それらを市民に伝えていく機能を持たせる。

「創造・練習・鑑賞」のための施設 音楽、演劇・ダンス、美術系のスタジオを1つのフロアに集め、その関係の図書、雑誌等の専門図書コーナーを設置する。

「交流」のための施設 市民活動団体の打ち合わせスペース、レターケース、ロッカー等を備え、団体の活動をサポートする機能を備える。プレイスペースは、気軽に集まって体を動かせるような展開とする。情報の交換や交流ができるようラウンジを設ける。カフェは公園とも連携させ、緑陰読書が可能な形にする。

「青少年活動機能」について スタジオ、プレイスペース、学習スペース等を自由に利用してもらい、その中で放課後時間帯の優先利用等の優遇措置を考える。

質疑

【委員長】図書館機能については前回の議論を踏まえ、少々見直しなどを行っているが、何かご意見はあるか。

【委員】AVコーナーは設置しないということだが、ゆったりした気分でヘッドホンで音楽を聴いたり、ビデオを見るサービスはあってもよい。また、専門図書や貴重な本の盗難防止など管理できる施設にする必要がある。館外持ち出しをチェックできる構造があれば、図書は館内自由に使ってもらってよい。

【事務局】AVコーナーというスペースはないが、ブラウジングコーナー、スタジオ系の部分でパソコンを用いて、様々な資料を見られるようにしたい。また、図書の管理としてブックディテクションシステムについては、採用していく方向だ。

【委員】音楽・演劇等のブラウジングコーナーというのは、ゆっくりくつろいで音楽を聴くとか、ゆったりしたいすに座って聴くとか、そういうイメージはしているか。

【事務局】現在は、そういうところまでは考えていない。

【委員】音楽、演劇・ダンス、美術系の映像の視聴や情報の収集は、自宅のパソコン等でできる。ここでは、くつろいでとかそういうようなものが必要になる。視聴覚というのは、これからの図書館機能として大事になるのではないかと考えている。

【委員】この施設では、個人では手に入りにくいCDなどの貴重な資料を集めて見せていけばよいと思う。

【委員長】次に「会議・研究・発表」のための施設についてのご意見をいただきたい。

【委員】学習スペースについての考え方は。

【事務局】学習スペースは、青少年の勉強をはじめ、いろいろな方の勉強や研究等の取り組みにも使える形を考えている。

【委員】学習スペースを図書館機能からはずすと図書館の資料を使う場合に非常に使いにくくなる。

【事務局】学習スペースで図書館資料を使う際には、貸し出しの手続きをした後に持ち込んでもらう形を考えた。

【委員】学習関連の書籍や音楽や演劇などの専門図書も同じで、管理ができていれば施設内のどこに図書があってもよいと思う。ちょっと勉強するのにいちいち貸し出し手続きをするのは利用者にとって不便だ。管理は大変だが、今までの図書館の概念を変えて、図書館資料を施設内どこで使用しても構わないという発想もできる。

【委員長】次に、創造・練習・鑑賞のための施設についてご意見をいただきたい。

【委員】ギャラリースペースについては、前回の新公共施設基本計画策定委員会（以降 前策定委員会と表現）の検討でギャラリーというスペースをつくるのではなく、あちこちの空間を利用して展示をしていこうということだった。

【事務局】現状では、独立したスペースを考えている。

【委員】音楽、演劇・ダンス、美術の中身については、前策定委員会の報告書と同様な形になっているがどう考えているか。

【事務局】基本的に前策定委員会報告書を踏襲している。音楽は、青少年を考えバンドの練習ができる部屋とし、演劇・ダンスについては若者に人気があると考えている。

【委員】こういうプログラムは、生涯学習のプログラムに関係していると思う。

【委員】整理の仕方を変え、生涯学習の中に、これらをとらえることもできる。

【委員】音楽スタジオだけではなく、演劇ダンスや美術系でも音は出てくるので、このアート系部分は何をやる場合でも音についての配慮を考えておく必要がある。

【委員長】続いて、交流についてのご意見をいただきたい。

【委員】市民活動機能についてだが、視察した仙台市市民活動サポートセンターのように市民活動の場所を提供するというイメージか。

【事務局】そうだ。打ち合わせスペース、ロッカー、印刷機器等の設置を考えている。

【委員長】続いて青少年活動の機能に関して意見をお願いしたい。

【委員】「青少年（中高生）利用者に対する工夫」という部分で、与えたものをどのように楽しんでもらうか、というような親切的な言い方になっているが、青少年そのものを巻き込んでいくやり方もあると思うがどうか。

【事務局】大学生をはじめ、青少年をどう取り込んでいくかというソフトの部分は今後詰めていく必要があると考えている。

【委員】青少年については、音楽、演劇・ダンス、美術スタジオなどを施設として用意するというイメージなのか。

【委員】青少年による自主的な施設の利用という考えがベースにあり、自主的にスタジオ、図書館、あるいは市民活動のスペースを使う施設利用型の形態かと思う。経済的な支援や一定の優遇措置をとることで、ある程度の利用を保障し、青少年の知的活動の支援という形にしていけばよい。

【委員】9ページの配置概念図で、青少年を強くイメージしているところが点線で囲まれており、各地の青少年センターもほぼこういうものを備えている。この施設はあらゆる市民を対象にするので、一定の優遇策をとって青少年センターの色合いを強く出そうという趣旨になっている。

【事務局】使用料や時間帯等についての優遇措置については、もう少し先に議論していきたいと考えている。

（3）配置計画案の検討

【古田土委員長】議事3「配置計画案」について事務局より説明を。

【事務局】図書館部分に関しては、閲覧スペース、レファレンス等基本的な部分のほか、対面朗読室等を入れていく。市民活動、音楽、演劇、美術関連図書は図書館機能として、それぞれの活動スペースに隣接して配置する形を想定する。会議・研究・発表に関わる部分では、武蔵野フォーラムという枠組みで、大会議室、中会議室のほかに、アーカイブスという機能を配置していく。創作・練習・鑑賞のための施設としては、音楽等のスタジオやギャラリーを想定している。

質疑

【委員長】この概念図は、前策定委員会報告書に示されているほとんどの施設を落とし込んだ形だ。先ほどの機能面での説明とも合わせ、全般的な議論をいただきたい。

【委員】図書館機能と他の機能が有機的に連携する一体的な施設という方向性の中で、一般図書のフロアと音楽等専門分野図書のフロアが分かれて設置された場合、管理がどうなるのか、ＩＣタグの技術的な面も含めどうなのか。

【委員】ＩＣタグは、例えばカバンの中に入っても識別は可能になっている。

【委員】１階の出入り口にブックディテクションの機械を設置すれば一応盗難防止についての問題はなく、あとは管理の考え方の問題だ。

【委員】図書が分かれた場合、別々の階に同じ装置を設置する必要はあるか。

【委員】１階の出入り口にあれば、大丈夫だと思う。

【委員】かなり思い切った基本計画なので、多くのスタッフが必要になるかもしれないが、一体感を持たせるという基本コンセプトでやるなら、理想的な人員を考えていく必要があるかもしれない。

【事務局】理想人員といっても、なるべく少ない人員で運営できるような施設配置が望ましい。また、コストの面は、費用削減的な要素と、さらにもう少しフレキシブルな運営を確保するというので、直営は考えていない。受け皿となる組織を検討する段階でそれらの問題は考えていきたい。

【委員】青少年の部分になるが、中高生が主体的に活躍できる場、あるいは進んでできるような仕組みがあれば彼らは集まってくる。

【委員】若者たちが、大人のボランティア活動や環境ＮＰＯ等の活動を生で見ることが必要だという議論が前策定委員会であった。講座をやっても、そこに来るだけになってしまうので、少し広い範囲の青少年の居場所をつくり、集いやすくしておいて、そこで大人を見てもらおうという基本コンセプトがある。

【委員】大人の活動を見ているだけではなく、一緒にやることが重要だ。例えばアート関連の部分で、地域の大学生、高校生、中学生が大人と一緒にになって、それらを運営するＮＰＯをつくる形も考えられる。また、学生は場所、やりがいを求めている。この施設に参加し、ほかの大学の学生とも一緒にやり、そして一般市民の方とも一緒にやっていくというのもよい。

【委員長】この配置概念図の音楽、演劇等のスタジオ部分に大人も含め青少年が入ってきて、その様な形で活用できればよい。

【委員】例えば、ギターのうまい大人に子どもたちがあこがれるような場になっていけばよい。

【委員】そういう形で、大学生など青少年に運営を任せるぐらいの取り組みがあってもよい。

【委員】利用料金が安い、高いの問題ではなく、そこに活躍する場があるということで若者が集まってくる。

【委員】ホームページ、メーリングリスト等別の側面から参加できる取り組みや、各大学をリンクするなど、ソフト面の工夫はできると思う。

【委員長】きょうここで結論というわけにはいかないなので、本日出された問題点、課題等について、次回、議論させていただきたい。

(4) その他

・ICタグについて

笠間市立図書館のICタグ記事について紹介

・次回日程

第4回策定委員会 10月18日(月)午後6時30分 市役所8階802会議室